

三菱自動車、オートモビルカウンスル 2025 に出展 ～「時代を切り拓いてきた名車たち」をテーマに展示～

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）は、4月11日（金）から13日（日）まで幕張メッセ（千葉県千葉市美浜区）にて開催されるオートモビルカウンスル 2025 に出展します。出展テーマは「時代を切り拓いてきた名車たち」とし、1964年発売の初代『デボネア』や1970年発売の『ギャラン GTO MR』、1976年発売の『ギャランハ』、1990年発売の『ディアマンテ』など、斬新なデザインや画期的なコンセプトで当時の自動車市場に新風を吹きこんだヘリテージカー4台を展示します。



デボネア



ギャラン GTO MR



ギャランハ



ディアマンテ

加えて、本イベントの日本車メーカー共通テーマである「過去が見た未来」のもと、当時は研究段階にあった四輪制御技術と運転支援技術を採用したコンセプトカー『HSR-II』（1989年東京モーターショーに参考出品）を展示。さらに昨年10月に大幅改良した『アウトランダーPHEV』を展示し、過去から現在まで当社が一貫して目指してきた四輪制御技術と運転支援技術を紹介します。



HSR-II



アウトランダーPHEV

また、会期中の12日（土）・13日（日）の二日間、全国の販売店や各種イベント出展などでご好評をいただいている「4WD 登坂キット体験イベント」を特設会場にて実施します。

オートモビルカOUNシル 2025 概要

<https://automobile-council.com/>

■出展車概要

1. 『デボネア』

1964年に発売した初代モデル。米国GM社のハンス・ブレッツナー氏を招聘してデザインした高級セダンで、2L直列6気筒OHVエンジンを搭載。パワーステアリング、パワーウィンドウ、前席電動シート、ボルグワーナー製3速AT、エアコンなど当時の最新技術を採用しました。

2. 『ギャラン GTO MR』

1970年に発売した2ドアハードトップクーペで、ファストバックスタイルとダックテールデザインが特徴。1.6L DOHCエンジンを搭載し、黒を基調とした航空機の操縦席をイメージした革新的な内装デザインで操作性が高く、運転席周りには8連メーターが配置されるなど豊富な計器類が特徴です。

3. 『ギャランΛ（ラムダ）』

1976年に発売した2ドアハードトップクーペで、スラントノーズ、角型デュアルヘッドライト、ロールバールーフ、ラップアラウンドリアウィンドウを装備し斬新なスタイリングが特徴。2L SOHCエンジンを搭載し、内装には革新的な1本スポーク式ステアリングやヘッドレスト内蔵リクライニング式フロントシートを採用しています。

4. 『ダイヤモンド』

1990年に発売した初代モデル。4ドアハードトップ高級セダンで逆スラントノーズが特徴。小型車の枠を超えた3ナンバーサイズのボディと2.0L～3.0Lエンジンをラインナップ。『HSR-II』で提案した先進技術のうち、4輪操舵やアクティブ電子制御サスペンションなどを採用しています。

5. 『HSR-II』

1989年、東京モーターショーに参考出品。3L V6 DOHC ツインターボエンジンを搭載し、速度域で可変するアクティブエアロシステム、フルタイム4WD、4輪ABS、4輪操舵、4輪独立懸架式サスペンションといった四輪制御技術、追尾走行や自動車庫入れ機能などの運転支援技術を採用したコンセプトカー。搭載技術の幾つかは後の三菱車に採用されています。

6. 『アウトランダーPHEV』

三菱自動車の電動化技術と四輪制御技術の粋を集め、「威風堂堂」をコンセプトとしたフラッグシップモデルです。2024 年 10 月の大幅改良で駆動用バッテリーの刷新による EV 航続距離伸長や加速性能の向上に加え、内外装デザインの変更により質感を向上させました。また 12.3 インチのナビゲーション、シートベンチレーションの採用や、ヤマハ株式会社と共同開発したオーディオシステムを全車標準装備とするなど、さらなる進化を遂げました。

以 上